

令和3年度 防衛大学校卒業式
久保 防衛大学校長式辞

本科生66期の皆さん、また研究科の皆さん、卒業まことにめでたうございます。

本日、防衛大学校本科501名、理工学研究科・総合安全保障研究科前期課程学生52名、後期課程学生7名が卒業の佳き日を迎えました。この中には29名の留学生も含まれています。

防衛大学校の教職員を代表して、本日小原台を巣立つすべての卒業生に対して、心からお祝いを申し上げたいと思います。

本日の式典には、岸田 文雄 内閣総理大臣および岸 信夫 防衛大臣のご臨席を賜っています。ご多忙の中でのご来訪に衷心よりお礼申し上げたいと思います。インド、カンボジア、ベルギー、そして広島をここ一週間で訪問された総理がこの小原台に駆けつけて下さる。総理のご健康が心配ではありますが、このことにもこの防衛大学校の位置づけが示されていると実感している次第であります。

本来、本日の式典には、卒業生のご家族の皆様をはじめとして、防大OBの皆様、そして多数のご来賓をお招きするところではありますが、新型肺炎の流行が収束しない中、やむを得ず大幅に縮小して実施することを決断せざるを得ませんでした。本校キャンパスでは、ちょうど桜が見事に咲き始めた折、誠に残念でもあり、また申し訳なく存じますが、どうぞご理解賜れば幸いです。お招きできたのはごく少数の方のみとなってしまいました。後ほど、ご来賓代表として元国家安全保障局長 谷内 正太郎様からご祝辞をいただくことになっております。

防衛大学校を卒業することは、一般大学よりはるかに難しいことであります。一般大学で必要とされている以上の単位を履修する必要があり、それに加えて訓練、学生舎生活、校友会活動もこなさなければならず、すべてそれなりに厳しさがあります。またカッター競技、棒倒し、遠泳など、さまざまな行事も盛りだくさんです。これらすべてをこなしてきた皆さんだけに、卒業の喜びもひとしおではないかと拝察しています。

約2年前から始まった新型肺炎の蔓延により、皆さんの学生生活はこの間、その対応策の中で過ごさざるを得なくなりました。その中であって皆さんはよく事態を理解し、努力してくれました。この点、同情を申し上げるとともに、感謝したいと思います。

ただし、他方で皆さんは、国民の税金によって支えられ、少なくとも経済的な心配をすることなく勉学と訓練に専念することができました。この点も思い起こし、日本国民に感謝の気持ちも持って欲しいと思います。そしてまさに「いざ」というときに国民の期待に応えて欲しいと思います。さらにこの卒業を機に、これまでお世話になってきたご両親等に感謝の気持ちをあらためて持っていただくことも肝要であります。

ところで、皆さんもお気づきのことと思いますが、防大を卒業したところで、皆さんは自衛隊において、依然としてある意味で何もできない状態であるとも言えるかもしれません。必要な技能については、これからこの4月に陸・海・空の各幹部候補生学校に進んでから習得していただくこととなります。

この点は初代校長の榎 智雄先生が早い時期から力説されていたことであります。榎先生は、4年間は教育課程、5年目に専門課程という理解を示されています。榎校長は防大の任務について、「自衛官の専門領域に踏み出す前に、将来の職域を強く意識しながら、まず人としての修養を積むことである」と述べています。

「人としての修養を積む」という部分が特に重要ではないかと感じます。

防大での教育・訓練は、皆さんが10年後、20年後、30年後、あるいは定年が伸びていることを想定すると40年後に遺憾なく力を発揮できるように、考案されています。

我が国を取り囲む安全保障環境が顕著に悪化する中、日本に万が一のことがあった場合、その対応の中心になるのは皆さんです。その基礎はすでにできています。これからも訓練と精進を続け、国を守るため、日ごろから万全の準備をしておいてください。国民に奉仕する皆さんの英雄的な生涯が、やりがいと誇りに満ちたものになることを願っています。と同時に、皆さんの努力が国民及び政府による努力と一体となって、結局何事も起こらず、皆さんの中の誰一人として、職務において命を落とすことがない。そういう結果になることも心よりお祈りしています。ぜひ幸多き人生を歩んでください。

最後になってしまいましたが、多数の卒業生のご家族、ご親族、そしてご友人の方々も、オンラインでこの卒業式をご覧いただけているのではないかと想像いたしております。入学した時には、場合によると頼りない印象を与える学生諸君であったかもしれませんが、今は精進を重ね、見事防大を卒業しつつあります。本日はぜひとも「よく頑張ったね」と誉めてあげてください。

これまで防衛大学校に対していただいたご支援に感謝しつつ、今後とも防大、防衛省・自衛隊、就中本日の卒業生諸君に対して、変わらぬご支援をいただくことができばまことに幸甚であります。

以上を持ちまして、本日の式辞とさせていただきます。

令和4年3月27日
防衛大学校長 久保文明